北大形成外科

第45回

アカデミー

2023.5.13(sat) 15:25-16:30

北海道大学医学部百年記念館 大会議室

Session 1

北成賞2023受賞記念講演

〈臨床研究論文部門〉 前田　拓

〈臨床研究論文部門〉 石川耕資

〈基礎研究論文部門〉 草島英梨香

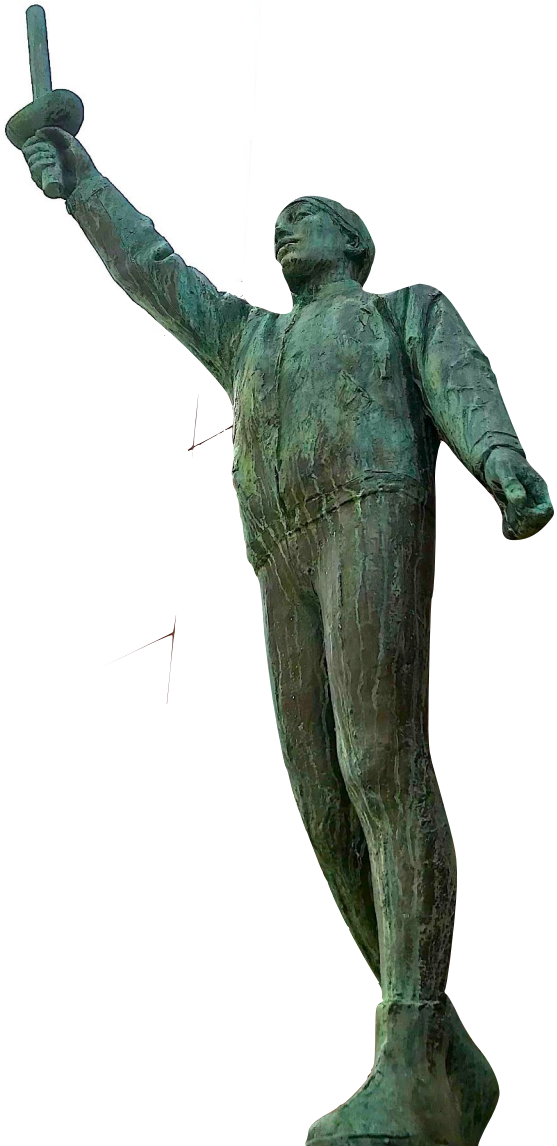
〈若手研究者部門 “La Primavera”〉 松田識郁

Session 2

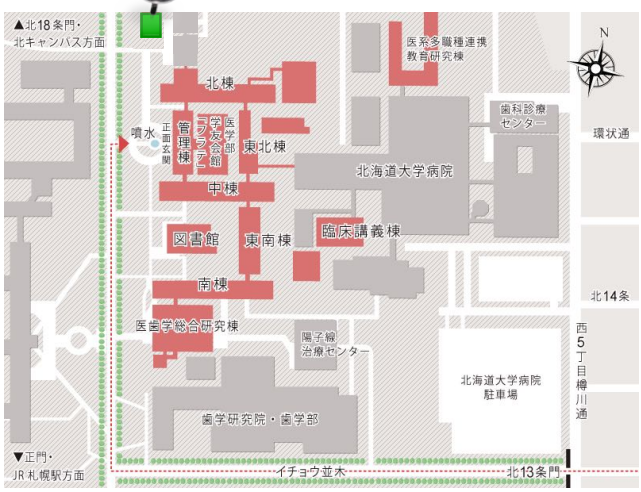
特別講演

横浜市立大学形成外科への赴任とこれまでの歩み

横浜市立大学医学部 形成外科学講座 主任教授　林　礼人



医学部
百年記念館



代　　表：山本有平

事 務 局：北海道大学医学部形成外科学教室

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

e-mail : info@prs-hokudai.jp

運営委員長：前田　拓

PROGRAM

Session 1

北成賞2023受賞記念講演

（15:25~15:45）5分×4
Moderator：舟山恵美

〈臨床研究論文部門〉　前田　拓

このたび北成賞「臨床研究論文部門」の栄誉に与りましたことを大変うれしく思います。これまでに基礎研究においてリンパ系再構築法について発表してきましたが、今回の内容はこれを臨床に応用した内容となります。本論文執筆は北大形成外科というめぐまれた環境の中でなし得たことです。改めて教室を主催されている山本教授と，北大形成外科の教室員の先生方に厚く御礼申し上げます。

・Maeda T, Yamamoto Y, Hayashi T, Furukawa H, Ishikawa K, Miura T, Hojo M, Funayama E: Restoration of lymph flow by flap transfer can prevent severe lower extremity lymphedema after inguino-pelvic lymphadenectomy. Surg Today: 2022 Oct 29. Online ahead of print

〈臨床研究論文部門〉　石川耕資

このたび北成賞「臨床研究論文部門」の栄誉を賜りましたこと、大変光栄に存じます。1992年からの22年間で北海道大学病院・斗南病院形成外科において、咀嚼筋におよぶ静脈奇形24例に対して行った硬化療法の治療効果について検証した症例集積になります。佐々木了先生の論文（皮膚軟部組織の血管奇形に対する硬化療法の臨床的検討. 日形会誌 25: 250-259, 2005）の評価法を英文論文で初めて踏襲して認められたことに意義を感じております。この受賞を励みに、今後も当教室からの臨床研究に尽力していく所存です。

・Ishikawa K, Sasaki S, Furukawa H, Maeda T, Miura T, Sasaki Y, Yamamoto Y, Funayama E: Effectiveness and safety of percutaneous sclerotherapy using absolute ethanol and/or polidocanol for maxillofacial venous malformations involving the masticatory muscles: A case series. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol: 2022 Jul 30. Online ahead of print

〈基礎研究論文部門〉　草島英梨香

このたびは北成賞「基礎研究論文部門」受賞の栄誉に与り、大変光栄に存じます。受賞論文は大学院の基礎研究の一部で、マウス血管柄付リンパ節移植モデルにおける悪性黒色腫の動態変化や腫瘍免疫能を評価しました。同術式によって局所リンパ系が再構築されることでリンパ節郭清モデルと比較し有意に遠隔転移を抑制し、局所の樹状細胞移送が起こることが示されました。ご指導頂きました先生方に深謝申し上げます。

・Kusajima EG, Yamamoto Y, Ishikawa K, Miura T, Funayama E, Osawa M, Takagi R, Maeda T: Sentinel node restoration by vascularized lymph node transfer in mice. Microsurgery: 2022 Nov 2. Online ahead of print

〈若手研究者部門 “La Primavera”〉　松田識郁

このたびは北成賞「若手研究者部門」受賞の栄誉に与り、大変光栄に存じます。小児の静脈奇形に劇症型溶連菌感染症が合併した一例報告と、チームサージャリーにおける形成外科の貢献について、新型コロナウイルス感染症が及ぼした影響を踏まえて、関堂先生、石川先生に続く形で報告いたしました。ご指導頂きました先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

・Matsuda N, Ishikawa K, Funayama E, Mitamura S, Sasaki S, Yamamoto Y, Maeda T: Streptococcal toxic shock syndrome in a pediatric patient with intramuscular venous malformation in the neck. J Emerg Med 63: e72-e76, 2022

・松田識郁, 石川耕資, 前田 拓, 大澤昌之, 舟山恵美, 村尾尚規, 林 利彦, 山本有平: チームサージャリーにおける形成外科の貢献　新型コロナウイルス感染症が及ぼした影響. 日形会誌 42: 369-374, 2022

Session 2

特別講演

（15:45~16:30）45分
Moderator：山本有平

横浜市立大学形成外科への赴任とこれまでの歩み

横浜市立大学医学部 形成外科学講座 主任教授
林　礼人 先生

横浜市立大学形成外科は1968年に大学病院で5番目、公立大学初の形成外科として開設された歴史ある形成外科教室で、2018年には創立50周年を迎えています。

この度、2022年10月に横浜市立大学形成外科第2代主任教授、第7代科長として赴任させて頂く機会に恵まれ、多くの方々に支えられながら、日々の業務に邁進しています。順天堂大学を卒業し、順天堂大学形成外科にて四半世紀の月日を過ごしましたが、顔面神経麻痺再建や末梢神経再生の基礎研究、皮膚悪性腫瘍、血管腫･血管奇形の領域には、特に注力して取り組んできました。同領域に素晴らしい功績を築いている北海道大学形成外科の先生方からは、非常に多くのことを学ばせて頂き、その教えは自分自身を動かす大きなエネルギーにもなってきました。山本有平教授をはじめ、御世話になった同教室の先生方に改めて御礼申し上げます。

本講演では、横浜市立大学の教授選考セミナーでのプレゼンテーションを通し、自身のこれまでの歩みや抱負、目指すべき将来像についてご紹介をさせて頂くと伴に、赴任後の現状や取り組みなどについても報告させて頂けたらと思います。

素晴らしき人材輩出と高い業績を積み重ねる北海道大学形成外科の皆様に敬意を表して。

林　礼人先生ご略歴

【学歴・職歴】

1995年 3月	順天堂大学医学部卒業
1995年 5月	順天堂大学医学部附属順天堂医院　皮膚科　臨床研修医
1997年 4月	順天堂大学医学部形成外科学講座　専攻生
1998年 4月	順天堂大学医学部形成外科学講座　助手
1999年 4月	順天堂大学　医学部　大学院　入学
2003年 3月	順天堂大学　医学部　大学院　卒業
2003年 4月	順天堂大学付属順天堂静岡病院　形成外科医長
2005年 4月	米国　ワシントン大学セントルイス　留学（ポスドク）
2007年 7月	順天堂大学医学部形成外科学講座　助教
2007年10月	順天堂大学医学部形成外科学講座　准教授
2011年11月	順天堂大学医学部形成外科学講座　先任准教授
2012年 2月	東京医科大学　皮膚科学講座　兼任准教授
2017年 4月	順天堂大学　医学部　形成・再建外科学　教授
2017年 5月	順天堂大学附属浦安病院　形成外科・再建外科　教授
2022年 10月	横浜市立大学　医学部　形成外科学講座　主任教授
	～現在に至る

【主な役職】

日本形成外科学会評議員、日本末梢神経学会理事
日本レーザー医学会理事、日本顔面神経学会幹事　　～その他多数